

エネルギー自給の確立
地球環境保全
地場産業振興
} を目指して

対馬市地域新エネルギー詳細ビジョンが 策定されました。



第4回策定委員会の様子

1月30日、第4回対馬市地域新エネルギー詳細ビジョン策定委員会が対馬市役所で開かれ、石油などの化石燃料に代わり対馬の地域特性を活かした新エネルギーの導入計画について定めた対馬市地域新エネルギー詳細ビジョンが策定されました。

同委員会は、対馬での自給

型エネルギーの確立、地球環境の保全、地場産業の振興と地域活性化を旨とするビジョン策定を目的に、広く市民や有識者の意見を聴くため平成19年6月に設置されました。

委員会で主に、木質バイオマスの熱利用と廃食用油のBDF（バイオディーゼル燃料）化を重点テーマとして、かつ、事業化に向けた調査・検討が進められてきました。

検討された内容と結果

「木質バイオマスの熱利用」については、製材所などで発生する残材をチップ化し、主に公共温浴施設等のボイラー用燃料として活用することを検討。事業化に向けた原料調達方法や、コストなどについて調査・検討が行われました。

その結果、二酸化炭素の排出量、燃料費の削減等の効果が見込まれ、投資効果の高い

事業であると判断されました。

一方、「廃食用油のBDF化」については、家庭や事業所からの油回収システムの構築についての検討や、軽油などの代替燃料についての可能性、経済性など事業化に向けた具体的な調査を行い、廃食用油のBDF化に向けての方向性が示されました。

今後対馬市では、この詳細ビジョンをもとに、「木質バイオマスの熱利用」と「廃食用油のBDF化」の推進と事業化に向けて取り組んでいきます。

なお、策定された「対馬市地域新エネルギー詳細ビジョン」は、対馬市ホームページで公開し、市役所政策企画課各支所地域振興課で閲覧できます。



湯多里ランドつしまで使用されている木質チップボイラー
地元製材端材等を利用したチップを燃料として利用しています。

白寿（99歳）おめでとございませう

阿比留 一三枝さん（豊玉町佐保）

明治42年2月3日生まれ



2月3日、めでたく99歳を迎えられた豊玉町佐保の阿比留一三枝さんに、市長から敬老祝い金を添えて褒状が贈られました。一三枝さんは現在、

長男家族の隣で自炊して暮らすなどとても元気で、医者に行っても「どこも悪いところが無い」と言われるほど健康とのこと。長生きの秘訣は、「心がけていることは特になく、普通に生活しています」と話していました。趣味は手芸で、子ども7人、孫17人、ひ孫20人いらっしゃるそうです。これからも元気で長生きしてください。

地球温暖化防止キャラバン隊来庁 対策への協力を呼びかけ



知事メッセージを朗読する山崎団長

二酸化炭素の家庭からの排出量抑制を訴える長崎県地球温暖化防止キャラバン隊が、1月28日対馬市を訪れ、地球温暖化防止対策への協力を呼びかける「県知事メッセージ」を届けました。

関係者が見守る中、市役所玄関で行われたセレモニーでは、山崎直樹団長（長崎県環境政策課長）が知事メッセージを読み上げた後、キャラバン隊のメンバーは対馬市交流センターへ場所を移し、通りすがりの買い物客らに啓発チラシ等を配布して家庭での節約、節電を訴えました。

豊玉高校と雞知中の生徒 「花の対馬ネットワーク」に協力し ゲンカイツツジを記念植樹



記念植樹する豊玉高校の生徒



雞知中学校の生徒

2月13日、県立豊玉高校3年生27名が卒業記念として美津島町のあそうベイパークの山林にゲンカイツツジの苗木500本を植樹しました。同地で「日本のゲンカイツツジの森づくり」を進めているボランティアグループ「花の対馬ネットワーク」の植樹作業に協力したものです。生徒たちは、仲間と協力して土を掘った後、ネットワーク会員が自宅で約2年間育てたという20cm程の苗木を植え、周りの土を踏み固めました。卒業後は対馬を離れ、福岡

で働きながら専門学校へ通う予定という峰町吉田の中村美和子さん(18)は「大きく育つてきれいな花を咲かせてほしいと願いながら植えました。帰省した時はぜひ成長を見に来たいです」と話していました。

5年間で2万本を植樹した「花の対馬ネットワーク」長渡稔治代表(会員34名)は、近年著しく減少しているゲンカイツツジの保護・増殖と、花の名所づくりを目的に同公

園内の5ヘクタールの山林に2万本の苗の植え付けを目指して、平成16年から植樹を続けています。5年目を迎えた今年は2月13日、16日、17日の3日間、ボランティアの協力を得て約3000本を植樹2万本の目標を達成しました。17日の作業には、雞知中学校3年生15名も参加しました。長渡代表は「今後は会員の自然観察能力を高め、ヒトツバタゴなどの開花情報を発信していきたい」と話しています。

対馬の若い消防士が意見発表 第20回消防職員意見発表会 最優秀賞に宮原孝之さん(上対馬出張所)



意見発表を行う宮原孝之さん

対馬市消防本部主催の第20回消防職員意見発表会が2月26日に開かれ、市内の消防署に勤務する6名の若手消防職員が、日ごろの業務を通して感じた課題や問題、今後の改善策などについて意見を発表しました。

実力伯仲の素晴らしい発表が続く中、最優秀賞には上対馬出張所勤務の宮原孝之さん(25)の「外国人傷病者向き合つて」が選ばれました。発表の中で宮原さんは、今年元旦に発生した外国籍旅客船の航行不能による緊急入港に救急出動した際、傷病者との間に「言葉の壁」を痛感

した体験を通して、言葉が通じなくてもより迅速な対応が行えるように、名前や持病等をローマ字で記した「もしもの時のチェックリスト」を考案し、入国する前の旅行者に記入してもらい常に携帯してもらうことを提案。このリストが命を繋ぐ手助けになると発表しました。

宮原さんは、4月4日に諫早で開かれる第31回長崎県下消防職員意見発表会に、対馬市消防本部代表として参加します。また、優秀賞には豊玉出張所の梅野聡志さん(22)の「住宅用火災警報器設置を願う」が選ばれました。



発表者の皆さん

第7回 対馬少年の主張大会 糸瀨みさきさん(仁田中1年)が最優秀賞

市内の中学生12名が、学校や家庭生活の中で感じた様々な意見を発表する第7回対馬少年の主張大会(対馬市青少年健全育成連絡協議会・対馬市教育委員会主催)が2月17日、豊玉町仁位の対馬市公会堂で開催されました。



発表する糸瀨みさきさん

文化祭での発表をきっかけに感じた伝統芸能の大切さについて発表しました。

糸瀨さんは「対馬には数多くの伝統芸能があるが、その伝統を受け継いでいくのは対馬に生まれ、その伝統の中で育ってきた私たち以外にはない。踊りの振り付けや機敏さだけでなく、人々の想いも絶やすことなく受け継いでいくことが、私たちの使命である」と聴衆に力強く語りかけました。

大会出場者は各町の予選会を通過した生徒たちとあつて内容の素晴らしさに加え、声も大きく発表態度も堂々としていました。会場に集まった210名の聴衆は、将来の社会を担う若者の意見を熱心に聞き入っていました。

審査の結果、最優秀賞を獲得したのは仁田中学校1年の糸瀨みさきさん。「絶すことなく」という題で、地元瀬田地区に伝わる「あやきり」の

糸瀨さんは、今年夏に実施される少年の主張長崎県大会に対馬市代表として参加します。「今日の出来は75点、緊張して少し早口になりました。県大会では、内容をよく伝えられるようにゆっくり話したいです」と抱負を語りました。



発表した12名の生徒の皆さん

中央の糸瀨みさきさんの両隣が優秀賞の中村智晴さんと瀧川桃華さん

主な大会結果 敬称略

- 《優秀賞》
- 中村智晴(雑知中2年)
- 『ルールがつなぐ人と人』
- 瀧川桃華(厳原中2年)
- 『自分らしく』

また、対馬地区保護司会の審査による平成20年度社会を明るくする運動長崎県弁論大会の対馬市代表には、豊玉中学校1年の築城喜英くんの『心の支えに』が選ばれました。

対高生と厳原小児童 仲良く共同で清掃活動 小高連携地域清掃活動



八幡宮神社で清掃する高校生と小学生

社会貢献活動「一校一役運動」の一環で2月12日、県立対馬高等学校が厳原小学校と連携して厳原市街の清掃活動を行いました。異なる世代との共同作業を通して、交流と郷土を愛する心を育んでもらうことを目的に昨年に続いて実施したものです。

活動には高校1、2年生458名と小学4年生以上の児童187名が参加。高校生と小学生が約20名ずつのグループに分かれ、万松院などの観光地や市街地など割当てられ

た担当箇所まで捨てられた空き缶や、茂みの中に隠れたごみなどを協力して拾い集めました。

最初は体の大きい高校生に緊張していた小学生でしたが、「あぶないけ気をつけんね」など優しく声をかけてくれる高校生に安心した様子で楽しそうに作業していました。フットワーク軽くあちこち動いては精力的にゴミを拾う小学生を見て高校生は「小学生はよく働くなあ」と、とても感心していました。

厳原町少年の主張大会
19名が意見発表



発表者のみなさん

第29回厳原町少年の主張大会が、1月27日対馬市交流センターで開かれ、小学生の部に町内の9校(分校含む)から11名、中学生の部に4校から8名が参加。約3000人の観客を前に、堂々とした態度で学校や家庭での体験を通して感じたこと、将来の夢などを元気に発表しました。

「一つの大切な命」と題して発表した厳原北小学校6年の横松壮志朗くんは、天からもらった大切な命が殺人事件な

どで失われていることや、差別を受けている人がいることについて発表し、「みんなが支え合うことが世の中には必要だと思う。僕はいじめや差別をせず仲間を増やし、たった一つの自分の命も、他人の命も大切にしていこう」と発表しました。

美津島町あそびたい
健康マラソン大会



1月27日、恒例のあそびたい健康マラソン大会(美津島町体育協会主催)が開催され市内の小・中学生やジョギング愛好者など312名が参加し、マラソンを楽しみました。難知中学校グラウンドをス

- タート・ゴールに浅茅湾沿いに設定されたコースで行われ、家族で参加するファミリーの部から一般男子の部まで、10クラスに分かれてレースが行われました。選手たちは沿道の声援を受け、力強く走っていました。
- 大会結果は次のとおりです。
(敬称略)
- ファミリーの部(1.0 km)
 - 山瀬さおり・未来 手束修二・一翔 中島美香・智佳・由佳
 - 小学4年生 男子(1.5 km)
 - 松村慶太 佐護賢也 岩見優衝 女子(1.0 km) 原田莉帆 田口沙羅 佐藤希紀
 - 小学5年生 男子(2.0 km)
 - 井上雄太 三浦健太 阿比留鉄馬 女子(1.5 km) 松原由希 近藤秋穂 中野祐里
 - 小学6年生 男子(2.0 km)
 - 松村冬威 小島正直 大石尚緩 女子(1.5 km) 松島奈央 長瀬早紀 葉師寺真奈
 - 中学生 男子(3.0 km)
 - 日下部将志 阿比留星 松村承太郎 女子(2.0 km) 八坂瑞翔 鳥羽架奈子 川上綾香 一般男子(7.5 km) 大森常正 柴田圭介 藤宏光

人権教育総合推進地域事業
中間発表会が開催されました。

1月24日(木)、佐護小中学校で人権教育総合推進協会の中間発表会が開催されました。

発表会には市内各小・中学校や高校の教職員、人権擁護委員協議会などの関係機関の代表者、佐護地区の住民、保護者など約60名が参加しました。

発表会は全校児童生徒42名による「世界が100人の村だったら」の力強い群読で始まり、その後小学校5・6年生の道徳と中学校2年生の学級活動の研究授業が行われました。



全校児童生徒による群読の様子



小学校道徳授業の様子

授業後の協議では、ロールプレイング(役割演技)のあり方や、きつしょう焼きなどの地域の伝統行事について質問が出されるなど、人権教育の視点を踏まえた授業の進め方や地域との連携のあり方が話題となりました。

次年度も3年間の研究のまとめとして、研究発表会が開催される予定です。